

# 手と手をつないで



No.363

山口 裕之

(マザー・アース人権啓発研究所主宰)

## SDGs(持続可能な開発目標)でコロナ禍を照らす

### SDGs(エス・ディー・ジーズ)をご存じですか

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2030年までに持続可能でより良い世界となることをめざすための国際目標の集まりです。2015年9月の国連サミットで採択されました。これらは要するに「みんなのための・みんなで支える未来目標」なのです。どの目標も「誰一人取り残さない」という考え方が基本となっています。SDGsは世界各国が取り組むユニバーサルなものであり、日本でも積極的に取り組まれています。大きな目標(ゴール)は全部で17あります。具体的に見てみましょう。

### SDGsの17のゴール

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任、つかう責任⑬気候変動に

具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさも守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう

これらの視点で企業や地方自治体、NPOなどでも事業・組織を見直して協働・連携する動きが数多く出てきています。今年のコロナ禍との関連で2つをご紹介します。

### コロナ禍にたちむかうSDGs

事例① コロナ禍で2月下旬頃からトイレットペーパーに関するデマが拡散し、全国的に深刻な品不足になっていた時のことです。SDGsを推進してきたいくつかの企業は店頭で大量の商品を積み上げた特設コーナーを設置し、着実に入荷している状況を報道陣に公開することで消費者に冷静な購買行動を呼び掛け、事態の沈静化に効果をあげました。ゴール⑫「つくる責任、つかう責任」に係して消費者にとっても「自らの購買行動が商品供給システム、消費生活にどんな影響を及ぼすのか？」という経験と学びを得る契機となりました。

すい情報をめざしています。ここでは字幕の挿入や文字サイズへの気配り、画面を補うガイド音声の追加などの工夫、手話通訳者の透明マスク着用や国際手話の配信などが進んでいます。

このように、SDGsは「誰一人取り残さない」という視点を中心に据えた人権を守る取り組みでもありません。これらの目標はそれぞれ個別に扱われるものではなく、いろんな目標と重ねながら取り組みが行われています。コロナ禍をはじめ地球上で起こっている共通の問題や課題を包括的にとらえて、私たちみんなで連携して解決することが今求められています。これからのポイントになるのは、「環境」と「経済」、人権や暮らしといった「社会」の3つの分野の調和を図ることであるとされています。私たちが自身の日常の小さな選択や行動が誰一人取り残さない地域社会や世界を作っていくのです。



事例② コロナ禍で動画やビデオ通話を活用した情報発信が増える中で、③④⑩のゴールの観点から視聴覚障がいのある人にとってアクセスしや